

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4191300013		
法人名	社会福祉法人 六親福祉会		
事業所名	グループホーム 牛津あしはらの園		
所在地	佐賀県小城市牛津町牛津80番地1		
自己評価作成日	令和5年11月27日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市天神一丁目4番15号		
訪問調査日	令和5年12月18日	外部評価確定日	令和6年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・介護理念に沿って、優しく笑顔で接し、ご利用者様個々に合った生活の支援が出来るように心掛けている。
- ・協力医療機関との24時間連携により、ご家族様が安心して頂けるように、こまかな状態報告を行っている。
又、代表者が協力医療機関の院長である為、急変や事故発生時は速やかな対応を行っている。
- ・地域に根ざした施設になるように、地域との関わりを持つようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

- ・理念に「笑顔で接します」とあるように、ご利用者が毎日笑顔で過ごして頂けるように職員がコミュニケーションを図ったり、声かけを行っており、令和5年10月に行われた法人内の研修発表会でも、グループホームの取り組みを発表された。毎日の生活の中に、体操はもちろん、歌や塗り絵、貼り絵などの取り組みを行い、今では生活の一部となっている。ご利用者は、毎日の取り組みを行う事で塗り絵や貼り絵が上達されており、職員とのより良いコミュニケーションに繋がっている。
- ・管理者が看護師の資格を所持されているだけでなく、協力医療機関が法人の理事長であり、グループホームに毎日往診に来られている。ご利用者のちょっとした状態変化や健康面の相談などもすぐに尋ねる事ができる体制になっており、利用者や職員にとっても心強い。また、24時間医療との連携が図れるだけでなく、必要に応じ、夜間に受診や往診もされており、医療体制も整っている。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(第2) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	※現在、1ユニットのみ稼働	事務室や職員休憩室に理念を掲示し、職員一人ひとりが理念を共有に心掛けるようにしている。又、毎回ではないが、ミーティング時、実践されているか話し合いをしている。	開設時から変わっていないグループホームの4つの理念は、リビングや事務所など目につく場所に掲示されている。管理者は、毎月のミーティングの時に理念に沿ったケアを行うよう促したり、日々のケアでも理念に沿った声かけを行っている。理念に沿ったケアを行う事で物事がうまく行く事が多く、職員にも「笑顔で接する」という理念は浸透している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している		地域住民の代表として、区長・老人会クラブ会長・民生委員2名に運営推進会議に参加して頂いている。地域敬老会出席や地域婦人会からの訪問はコロナ禍の為、しばらく中止となっていたが、徐々に再開している。	コロナ禍で地域との付き合いは少なくなったが、近所の方から花を頂いたり、区長さんからマッサージ機を頂いたりと交流はあった。コロナ禍前は敬老会に出向いたり、役員の方が踊りの訪問に来られる事もあったので、これからは徐々に再開していきたいと考えている。同法人内の特別養護老人ホームに出向く事もあり、今年度は高校のプラスバンドを見たり、クリスマス会を行うなど少しずつ活動を広げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている		地域住民の代表者と話をし、地域の集いに参加し、代表者より地域の人々に認知症の人について話をし頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		運営推進会議を2ヶ月に1回行い、市職員・地域包括支援センター職員・地域住民・家族代表を委員として、情報交換を行っている。	運営推進会議は、コロナ禍でもできる限り開催をしており出席率も高い。会議ではグループホームの報告に対して意見が出る事が多く説明をしている。委員の方からは認知症に対する意見や相談も多く、認知症の理解も深めている。新しい施設の案内や入居者の募集なども、運営推進会議を通して、民生委員の会議に出席するなど相互の交流も行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(第2) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる		小城市福祉部高齢障がい支援課高齢者支援係長に運営推進会議の委員をお願いし、小城市との連携を密にしている。	市の職員が運営推進会議の委員でもあり、出席もされるため、顔見知りの関係である。グループホームの受け入れの相談を行ったり、法人の研修など必要な時には見学に来られるなど、しっかりと協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる		身体拘束は行っていない。身体拘束ゼロを目指し取り組んでいる。芦刈本部(特養)での職員全体会議やグループホーム・ミーティング時に勉強会を行っている。	身体拘束「ゼロ」を目指しており、それは理事長の方針でもあり、系列の病院でも身体拘束はしない事を心がけている。勉強会はグループホーム内でも法人内でも行っており、職員は参加し、報告書も提出している。玄関はセンサーは設置しているが施錠はしていない。出て行かれるご利用者がいたら職員は付き添い、気分転換をして頂き、納得して戻ってもらうようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている		ミーティング時、虐待防止について職員へ話をしている。(内部研修)又、本部での全体会議の折に研修を受けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している		権利擁護について、内部研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている		契約書・重要事項説明書及び、パンフレット・利用料金表を用い、十分に説明を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(第2) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている		玄関に意見箱を設置している。また、ご家族面会時に要望を伺ったり、ご利用者の近況報告を行っている。面会時や電話にて近況報告を密に行っている。	面会は月に1回くらいの機会はあるため、その時に要望や意見を聞くようにしているが、ご利用者の状態など電話での報告も多く、その時にも「何か要望はありませんか」と聞くようにしている。ご家族からの運営に関する意見や要望はほとんどなく、感謝の声が多い。2か月に1回、行事の報告や写真を載せお便りを発行している。ご家族はグループホームでの様子が分かり安心に繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている		2ヶ月に1回特別養護老人ホームなどと全体会議を行い、又毎月1回、グループホーム職員でミーティングを行い、意見交換の場としている。	2か月に1回、全体会議があり、その時に職員に意見や要望を尋ねており、意見も活発に挙がっている。日常ではノートや会話の中で聞き出すようにしており、管理者が決めてしまうのではなく、改善案など職員みんなで検討し決めるように促している。1年に1回は面接を行っており、職員からの要望があれば面接の場を設ける事もある。面接で上手く伝えられない場合にも備え、紙面に起こす方法もあり、職員への配慮も伺える。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている		定期的に人事考課を行っている。又、希望があれば上司と面接を直ちに行って、納得して勤務している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		3月に新任職員研修を行っている。毎月ミーティング後に研修を行っている。(研修計画作成)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている		小城市高齢者安心ネットワークの一環として南部地区の介護保険サービス事業所等の多職種との連携を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(第2) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている		入所前に必ずご利用者の状態把握を行っており、職員にご利用者の望む生活像や対応の仕方を周知徹底している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている		入所時の契約時や、ケアプランの更新時に聞き取りを行っている。また、ご家族様の面会時や電話にて近況報告を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている		入所申込時や入所前の状況把握の際に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている		日常生活の中でご利用者ができる事を探し、洗濯物たたみ等をほぼ毎日して頂いている。またレクリエーション時のおやつ作りを月数回予定し、職員と共に作って頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている		契約時にグループホームとはどういう施設なのかをご家族に説明し、利用者に自分でできることはして頂くようにしている。また、施設・職員で対応できない場合等は、ご家族に連絡して協力をお願いしている。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(第2) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている		家族連絡は適宜行っており、面会は窓越しだけではなく、まだやや制限はあるが、短時間で面会を行っている。	以前は、近所の方や仲間だった方などの訪問があったが、コロナ禍でほとんど無くなってしまった。ご利用者の要望があれば支援はしたいと考えており、感染症の状況を見て徐々に再開したいと思っている。電話の支援は行っている。携帯を持っているご利用者もあり、継続して利用できるよう定期的に充電をするなど支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている		ホールでの席順等に配慮し、話の合う方同士を近くの席にしている。又、1日の中でも席を替え、一人一人は孤立しないように考えている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている		入院時には、入院中の病院に行き、本人様や家族様の相談や支援に努めている。また、退院後、再入所したいと相談がある場合、利用申込を再度行って頂く。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		サービス契約書(1)や基本情報に本人の意向を書くようにしているが、補足として、ご家族の意見も頂いている。	ご利用者やご家族から思いや意向を尋ね、以前から好きだったものや趣味などをケアプランに明記し現在の活動に活かしている。 ご利用者が「したくない」と思われている事は、意向を尊重し対応している。「自宅へ帰りたい」と言われるご利用者の一時外出を支援するなど意向に沿ったケアを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている		生活歴については、ご家族や本人から聞き取り、基本情報に記載するようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(第2) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、 有する力等の現状の把握に努めている		アセスメントにより心身状態・有する 能力の把握に努めている。1日の過 ごし方については、基本情報の中に 記載するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している		毎月1回職員ミーティングを行い、意 見交換の場としている。また、サー ビス計画書の更新時にサービス担 当者会議を行い、議事録を残してい る。	ご利用者のケアについて職員から は、毎月のミーティング時に意見を 聞き、ご家族の要望と合わせてケア マネージャーが作成をしている。ケ アプランには個別のサービスが詳し く明記されている。サービス担当者 会議は、電話での説明が主で来園 時にサインを頂いている。 日常ではちょっとした変化も見逃さ ないよう連絡ノートなどで情報共有 し、ケアを変更した時もタイムリーに 対応できるようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づき や工夫を個別記録に記入し、職員間で情 報を共有しながら実践や介護計画の見直 しに活かしている		日々の記録を記載するよう、職員の 目につきやすい所に計画書を置いて いる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉 われない、柔軟な支援やサービスの多機 能化に取り組んでいる		自分の事を心配されたり、以前デイ サービスやショートステイを利用され ていたため、「帰らないといけない の？」と問われる事が多い。声掛け にて対応し、またご家族に電話し相 談している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができ よう支援している		運営推進会議の中で地域との交流 を増やしている。地域の敬老会等積 極的に参加するように努めていた が、コロナ禍で最近では出席できてい ない。記念品等は届けてもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(第2) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している		毎日、協力病院より往診に来られ、 また往診の為の同意書を医師より ご家族に説明されている。必要時 には受診や往診の支援を行っている。 24時間連携により夜間も受・往診を して頂いている。	もともとのかかりつけ医を希望され る場合はそのまま継続できるが、毎 日医師の往診もあることで医療への 安心もあり、グループホームの入居 時にほぼ協力医へ変わられている。 他科病院も希望の病院へ行く事が できるが、協力医の紹介で行かれる こともある。病院受診はご家族に協 力をお願いするが、難しい場合は職 員で対応することもある。24時間の 連携体制も図れており、必要に応じ 夜間の往診や受診もあるためご利 用者や職員にとっても心強い。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪 問看護師等に伝えて相談し、個々の利用 者が適切な受診や看護を受けられるよう に支援している		看護師を配置しており、医療上の管 理を行っている。又管理者が看護師 の資格があるため、看護、介護職員 と情報交換は早期にできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院できる ように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。又は、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行っている。		入所時に重度化した場合の指針に ついて、書面で説明し同意書を頂 き、協力医療関係者との情報や相 談を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所のできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる		入所時に本人、家族等と話し合い重 度化した場合について、書面で説明 し同意書を頂くようにしている。	看取りは同法人の特別養護老人 ホームがあることもあり、重度化した 場合は特別養護老人ホームへの住 み替えの提案を行っている。グルー プホームでは看取りを希望されて も、酸素などの体制が整っていない 事や、入浴などが安全にできない事 を説明すると特別養護老人ホーム へ希望されるご家族も多い。しか し、希望される方はできる限りグ ループホームで看たいという思いも あり、ぎりぎりまでできる限りの対応 は行っている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(第2) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている		グループホームの会議の中で応急手当や初期対応について勉強会を行い、救急対応マニュアルを作成し、急変時には協力病院にすぐ連絡するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている		連絡網を各職員に配布している。また、消防計画書に基づき地震・風水害時も含め、年2回避難訓練を実行している。また、災害時の避難方法や対応について等の勉強会も行っている。	年に2回、避難訓練を行っており、火災だけでなく、風水害や地震、不審者の対応の確認など幅広く対策を立てられている。避難訓練はコロナ禍前は地域の方や消防署の参加もあったが、現在は消防設備業者のみの参加となっている。しかし、消火器訓練や通報訓練なども同時に行っている。備蓄品は同法人の特別養護老人ホームに3日分確保されており、2階建てのある特別養護老人ホームへ避難することになっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている		良くない言葉かけをすることも時にある為、直接管理者から注意したり職員同士でミーティング時に話し合い注意するようにしている。又、本部での研修もあり、積極的に参加している。	声かけを大切にしており、ご利用者一人一人に応じた声かけを行っている。管理者は不適切な声かけを聞いたら、その時に伝えるよう心掛けている。入浴はマンツーマン入浴を行い、希望があれば同性介助も行っている。排泄では、プライバシーを尊重し、ご利用者の意向を聞き対応しており、排泄のタイミングや伝え方は職員で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている		レクリエーション等、本人が希望されるものを行い、また飲みたい飲み物の選択等も利用者にして頂くようにしている。サービス計画書の更新の際に意向を確認するようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(第2) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		日課計画をそれぞれ作成しており、希望に添うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している		季節ごとに、ご家族に衣類の入れ替えを依頼している。また、誕生日等のプレゼントに希望の品を提供している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている		おしぼりやエプロンの準備はして頂いている。食事の準備はほとんど一緒にできないが、メニューを見ながら料理の好みについて聞いている。又、片付けを手伝ってもらっている。	入居の際に、嗜好やアレルギー、禁食を尋ね、食事に反映している。水分もご利用者の好みに合わせ提供している。献立は法人の管理栄養士が立てており、法人の本部に食材を取りに行き、調理表を見ながらグループホームのキッチンで作っている。おやつはできるだけ手作りのおやつを作っており、毎年クリスマス会や誕生会で作るケーキはご利用者に喜ばれている。ご利用者は茶碗を拭いたりおしぼりを巻いたり、できる家事を手伝われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		日々のバイタルチェックに加え、月1回の体重測定を行い、協力病院の医師に報告している。また、栄養スクリーニングを行い、介護支援専門員と情報を共有している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている		毎食後の口腔ケアと、週3回の義歯洗浄を行っている。歯科往診もご家族と相談し行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(第2) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている		毎月ミーティング時に個人の排泄について話し合っている。自立支援に向けた支援を行っている。	オムツの使用は料金がかかることを職員は把握しており、定期的に声かけをしてできるだけトイレでの排泄を促している。そのためほとんどのご利用者がトイレでの排泄である。寒い時期は夜間ポータブルトイレを使用してもらうようにしている。排泄の情報は毎月のミーティングで共有し、ケアについて話し合い、必要時にご家族に相談し、変更することもある。オムツもより良い物を使用できるよう、業者も選定している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる		便秘の方や水分摂取量の少ない方については、早めに牛乳など飲み物の種類を変えたり、量を増やして対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている		あらかじめ曜日・時間帯を決めており、個人に応じた入浴支援は出来ないが、強い要望がある場合は曜日や時間帯を変更するようにしている。	入浴の曜日は決めているが、毎日沸かしているため体調やご利用者の意向に沿って変更が可能である。脱衣所や浴室も十分な広さがあり、ご利用者はゆっくり入浴ができる。毎回入浴剤を入れるなど、気分転換になる様な工夫もされている。また職員は、乾燥防止のための保湿も心がけている。夜間入浴の希望は、気候や職員体制が整わず難しいが、できる時は対応したいと思っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している		日中きつそうにされていたり、居眠りをされている方には、ソファやベッドに案内したりして1～2時間ほど休んで頂いている。また使い慣れた枕や毛布等あれば持参して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		利用者様それぞれが服用されている薬の一覧表を作成しており、随時確認出来るようにしている。服薬管理表を作成し記載している。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(第2) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている		入所時に、ご家族へご利用者の嗜好の確認を行い、手作業をして頂くようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している		バスハイクを季節ごとに計画し、四季を感じて頂くように支援を行っている。又、自宅に帰りたいと希望がある方については、ご家族様の理解とその利用者の状態を勘案し、外出支援を行っていたが、コロナ禍にてご家族との外出は今の所まだ、控えて頂いている。	毎年、梅の花や桜の花、コスモス見学など季節に応じてバスハイクは行っており、コロナ禍でも開催してきた。地域の方や運営推進会議でもお勧めのコースなどを尋ね、ご利用者の楽しみを増やすようにしている。コロナ禍前は墓参りや外泊もされていたが、現在は出来ていないため、今後徐々に再開したいと考えている。管理者は日常の散歩に楽しみが持てるよう玄関から裏道にかけて毎年コスモスを植えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		現金を持参されている方が2名いるが、不穩になられる為、ご家族様に相談・説明し紛失がないよう時折確認を行いながら本人様に渡しているが使用する事はない。また、1名様は現金を預かっており、管理者が買い物をして、領収書をご家族へ郵送している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		利用者に手紙がくると、それに対して返信する支援は行っている。毎年、年賀状はかける方は書いて頂き、書けない方は代筆している。また、携帯電話を持参されている方もおられる為、居室にてご家族へ電話をされている。充電などは管理をしている。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB(第2) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		自ら塗ったぬり絵や貼り絵を掲示板に掲示し自由に見て喜んで頂いている。季節ごとのタペストリーや短冊・ツリー等を出してホールに飾っている。	リビングの天井は高く、大きな窓があり、光がグループホーム全体に射しこみ明るい印象である。ソファには寛がれる方や眠る方がおられ、テレビを見られたり、塗り絵をされたり、ご利用者は思い思いに過ごされている。掃除が行き届いているため、清潔感があり、気になる臭いもない。リビングはクリスマスのタペストリーやご利用者の創作品などで装飾されており季節感も感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		気の合う方を同じ席にしたり、ホールにソファを置き、1人で好きな場所に掛けて頂くようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		入所時、ご家族に説明し、使い慣れた家具を持ち込んで頂くようにしている。また、畳の部屋を好まれる方もおり、畳を敷いて対応している。	居室にはベッド、タンス、洗面所が備え付けられている。貴重品以外は持ち込みの制限はない。枕や三段タンス、仏壇などの私物の持ち込みもある。ご利用者の生活に合わせて畳のお部屋も用意されている。居室には家具だけでなく、タオルケットや毛布など使い慣れた物があるため、ご利用者は自分の部屋として認識されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		トイレの場所等が分かりやすいように、大きい字で場所を表示したり、場所を覚えてもらうように声掛けを行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)		○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)		○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)		○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)		○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)		○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目:28)			1. ほぼ全ての利用者が
			○	2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)			1. ほぼ全ての家族と
			○	2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)			1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまに
			○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)		○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)			1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
			○	3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。			1. ほぼ全ての利用者が
			○	2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。			1. ほぼ全ての家族等が
			○	2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない